

## 第 10 カラオケ施設等に係る防火安全対策

この基準は、政令別表第1に掲げる（2）項ニ（以下「カラオケボックス等」という。）に係る具体的基準を定めたものである。

カラオケボックス等の防火安全対策基準は、次によること。

### 1 延焼拡大防止に関する事項

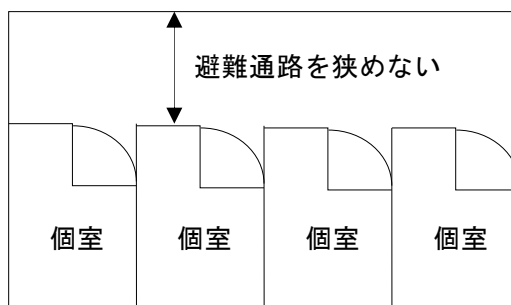
- （1）揚げ物調理を行う室の室内に面する壁・天井の仕上げは、不燃材料とすること。
- （2）カラオケボックス等の出入口には常時閉鎖式の戸を設けるものとし、のぞき窓を設ける場合は、線入り又は網入りガラスとすること。

### 2 避難管理に関する事項

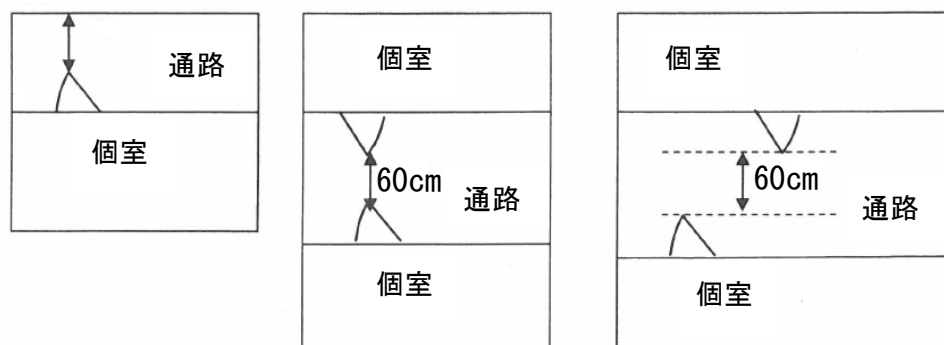
避難管理については、条例第 39 条の 3 によるほか、カラオケボックス等が存する階については、二方向避難を確保すること。

なお、条例第 39 条の 3 ただし書の「避難上支障がないと認められるもの」の適用にあつては、次によること。◆

- （1）個室の外開き戸が、避難通路の幅員を狭めないような構造で、避難上有効に管理されているもの。（第 10－1 図）
- （2）避難通路の有効幅員が広く、避難に支障がないと判断されるもので、片側に個室がある場合は、外開き戸を開放した時の避難通路の有効幅、また、両側に個室がある場合は、両方の外開き戸を開放した時の避難通路の有効幅がおおむね 60cm 以上確保できること。（第 10－2 図）



第 10－1 図



第 10－2 図

### 3 消防用設備等の設置に関する事項

#### (1) 屋内消火栓設備

屋内消火栓設備が義務設置される場合には、1人で操作することができる屋内消火栓設備を設置すること。

#### (2) スプリンクラー設備

カラオケボックスを有する防火対象物にスプリンクラー設備が義務設置される場合は、スプリンクラーヘッドをカラオケボックス内にも設置すること。◆

#### (3) 自動火災報知設備、非常警報設備

ア 自動火災報知設備の主音響装置及び地区音響装置にあつては、任意の場所で65dB以上の音圧を確保するものであること。ただし、他の警報音又は騒音が65dB以上ある場合は、次の(ア)若しくは(イ)のいずれかによる措置又はこれらと同等以上の効果のある措置を講ずること。◆

(ア) 主音響装置等の音圧が、当該場所における他の警報音又は騒音よりも6dB以上強くなるように確保されていること。

(イ) 自動火災報知設備の主音響装置等の作動と連動して、当該主音響装置等の音以外の音が自動的に停止するものであること。

イ 自動火災報知設備の地区音響装置及び非常警報設備のベル又はスピーカー(以下「地区音響装置等」という。)にあつては、(ア)または(イ)のいずれかの措置を講ずること。◆

(ア) カラオケボックス等の個室内に地区音響装置等が設置されており、地区音響装置等の警報音が通常の使用状態(ヘッドホン等を使用する場合は、その状態を含む。)において、他の音響又は騒音と明らかに区別して聞き取ることができるように措置されていること。

(イ) 自動火災報知設備又は非常警報設備の作動と連動し、地区音響装置等の音以外の音(ヘッドホン等の音を含む。)が自動的に遮断される措置がされており、任意の場所で65dB以上の音圧が確保できること。